（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 令和7年度土地利用型作物セミナーの開催

- 土地利用型農業の収益性の向上を図るため、JA全農とちぎと共催で、土地利用型作物セミナーを開催しました。
- スマート農業技術の活用についての基調講演や、生産者による省力・低コスト生産及び作業分散につながる麦・大豆を経営に取り入れた事例の発表が行われました。
- 今後も本県農業の持続的な発展を目指し、引き続き生産性向上に向けた支援を進めていきます。



セミナーの様子

（生産振興課）

○ 農地整備事業刈沼川地区で工事実施（河内地域）

- 宇都宮市刈沼川地区では、平成30(2018)年度から、担い手への農地の集積・集約化やほ場の大区画化による生産コストの低減などを目的に農地整備事業を実施しています。
- 令和7（2025）年度は、地区内10.6haの排水条件を改善し、水田の汎用化による園芸作物の導入を可能にするとともに、農業生産性の向上を図るため、暗渠排水工事を実施しました。



暗渠排水工事



掘削状況

（河内農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 水管理の省力化を目指してスマート農業セミナーを開催（芳賀地域）

- 水管理システムを始めとするスマート農業技術の普及と農作業安全対策の周知を目的として「芳賀地域スマート農業研修会」を開催しました。
- 当日は、県内の稲生産者など約60名が参加し、芳賀町の生産者が導入した水管理システムの見学や、メーカーによる機器紹介のほか、県農業機械士会による熱中症対策の呼びかけを行いました。
- 今後もセミナー等の開催等を通じて、スマート農業の普及を促進していきます。



水管理システム見学



農作業安全講義

（芳賀農業振興事務所）

○ RTK基地局の有効性を現地で実証（芳賀地域）

- 真岡市が設置したRTK基地局は、芳賀地域のスマート農機の導入促進の鍵となっています。
- RTK基地局の有効範囲を把握するため、管内各町のほ場で、測量機器を用いてスマート農機の動きを計測し、誤差の範囲を確認しました。その結果、他町でも真岡市のRTK基地局が有効であることが分かりました。
- 引き続き、スマート農業技術の活用に必要な取組を進めていきます。



位置補正し直進する農機



測量機器での計測

（芳賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○　水稲湛水直播栽培現地検討会の開催（塩谷南那須地域）

- 水田農業の規模拡大に欠かせない省力化技術の一つである湛水直播の現地検討会を開催し、生産者や関係機関・団体等54名が参加しました。
- 直播栽培を導入していない農業者の半数以上が導入に前向きな姿勢を示すなど、直播に対する高い関心が伺えました。
- 今後は、乾田直播についても地域の実情にあった栽培技術を確立し、各経営体の方針や個々のほ場条件に合わせた導入支援を行います。



現地検討



意見交換会

（塩谷南那須農業振興事務所）



（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 気候変動対策セミナーの開催

- 近年の気候変動による猛暑や新たな病害虫の発生等は、農作物の収量低下等の被害を引き起こし、食料の安定供給に懸念をもたらしています。
- 関係者が実状を共有し、対策の重要性を啓発するセミナーを開催しました。
- 農研機構から気候変動に伴い高まる農業へのリスクや適応策、県内生産者から暑熱対策の取組を講演いただき、対策の重要性を改めて学びました。
- 今後もこうした取組を通して、気候変動に適応しながら持続的に成長する農業を実現していきます。



講演「施設園芸（花き）における気候変動対策」

（農政課）

○ 令和７年度トマト・にら・アスパラガス生産振興大会の開催

- 本県施設園芸の主力品目であるトマト・にら・アスパラガスについて、品目毎のアクションプラン「目指せ100億！トマトぐっとUP運動」、「にらドリーム70運動」、「アスパラにょきにょき本州No.1運動」を策定し、生産拡大から消費拡大までを一貫して取り組んでいます。
- これらプランの一環として、栽培技術の向上及び産出額の目標達成の機運醸成に向けた品目毎の生産振興大会を開催しました。
- 今後も本県園芸の持続的な発展を目指し、生産振興を図っていきます。



にら生産振興大会の様子



トマト生産振興大会の様子

（生産振興課）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○「いちご王国・栃木」の更なる発展に向けて

- 本県のいちごは、収量性に優れる「とちあいか」の作付面積が県全体の9割を超え、主力品種となりました。
- 「とちあいか」のポテンシャルを最大限に引き出すため、サポートチームによる技術指導や「食味向上プロジェクト」など、生産者や農業団体と一体となり生産性や品質の向上を図る取組を進めています。
- また、生産者の高齢化や労働力不足が深刻化する中、育苗作業の負担軽減を目的とし、定植苗の生産を委託する「リレー苗」の活用が進んでいます。近年は各地区でリレー苗協議会が設立され、生産強化に向けた体制整備が進められています。





食味向上プロジェクト現地検討会

（生産振興課）

○　新いちご団地構想を検討（河内地域）

- 将来にわたって担い手が活躍できる生産基盤の構築のためには、農作業の効率化と低コスト化を図るとともに、担い手の経営規模拡大が重要です。
- 宇都宮市のこども総合科学館の南側に位置する地域では、「幕田西部地区」として、ほ場整備事業の実施に向けた計画づくりを進めています。
- いちごは、地域の特産品であるため、大規模な団地の形成を通じて、生産拡大を図るなど、幕田西部地区のみならず宇都宮市全体の活性化にもつなげていきます。



幕田西部地区現地状況
(ドローンにより撮影)



いちごの生産イメージ

（河内農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 細霧冷房による花き暑熱対策（上都賀地域）

- 近年、夏季の高温により、花きの花芽分化異常や開花遅延が問題となっています。
- シクラメンの施設栽培において、高温の影響を回避するため、気化熱の原理を利用した細霧冷房の導入を促進しました。
- 6～9月の高温時の冷房処理で施設内及び葉の温度が約4℃低下し、開花遅延することなく11月の出荷期を迎えることができ、品質も優れました。
- 低コストで効果的な高温対策技術として期待されます。



稼働中の細霧冷房



出荷期を迎えたシクラメン

（上都賀農業振興事務所）

○ にらの産地拡大に向けた支援（上都賀地域）

- 上都賀地域では、にら産地の拡大を図るため、上都賀地域にら戦略に基づき、生産性の向上と省力化を推進しています。
- 国庫補助事業を活用したパイプハウスの整備やウォーターカーテンの導入により、産地の栽培面積は昨年から3.4ha増加しました。
- また、出荷調製作業の省力化のために開発された「そぐり機」の実演会を開催し、普及拡大を図りました。



パイプハウスの整備



「そぐり機」実演会

（上都賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ ほ場整備を契機とした水田への園芸作物導入（芳賀地域）

- 市貝町椎谷地区は、ほ場整備工事により排水不良が改善され、畑作物の作付けが可能な水田となりました。
- その結果、いちごの新規栽培や、地域外の農業法人の参入によるトマト、スナップエンドウなどの施設野菜の生産が始まりました。
- 今後は、安定生産や生産拡大に向け、栽培技術などをきめ細かく指導していきます。



水田での施設栽培



いちご栽培の様子

（芳賀農業振興事務所）

○ 園芸品目の暑熱対策技術の確立（那須地域）

- 園芸生産においては、近年の気候変動に適応した生産技術を確立し、持続可能な生産体制を構築することが喫緊の課題となっています。
- アスパラガスでは、暑熱対策について講習会及び現地での実証展示を行いました。また、塩原高原のほうれんそう産地では、耐暑性品種の選定や遮光資材の効果的な活用法を検討し、成果を普及しました。
- 今後も、園芸生産の維持・拡大に向けて、気候変動適応対策技術の普及推進に取り組んでいきます。



耐暑性品種の選定



外気導入装置の検証

（那須農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 農作物高温対策セミナーの開催（安足地域）

- 近年の夏季の災害級の高温は、農作物の収量減少や品質低下に加え、農作業時の熱中症リスクの増大が農業経営にとって大きな課題となっています。
- そこで、本格的な夏を迎える前の6月に農作物の高温対策をテーマとしたセミナーを開催しました。
- セミナーでは、㈱廣幡農園による「農家が教える気象情報活用術」の講演に加え、管内農業者からの対策事例の発表、更には保健師による農作業時に気をつけるべき熱中症対策について講話を行いました。
- 本セミナーが参加した農業者にとって高温対策を取り組むきっかけとなり、今後の経営改善につながることを期待しています。



農作物高温対策セミナー
(参加者90名を越える会場)



遮熱塗布剤散布の事例発表
（安足農業振興事務所）



（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○ 「園芸大国とちぎづくり露地野菜セミナー」の開催

- 需要の増加が見込まれる露地野菜の生産拡大に向け、農業者等の機運醸成を目的にセミナーを開催し、農業者など74名が参加しました。
- 加工・業務用野菜の生産に取り組む先進的な農業者から、経営規模の拡大や産地間連携等を踏まえた講演をいただき、活発な意見交換が行われました。
- 今後もセミナーの開催等を通じて農業者への情報共有を積極的に行い、引き続き露地野菜の生産拡大に向け支援していきます。



加工・業務用野菜の取組事例紹介

（生産振興課）

○ たまねぎ直播実演会の開催（河内地域・芳賀地域）

- 「たまねぎ直播栽培」は、育苗・定植作業が不要となり、省力化や低コスト化が期待できます。
- 技術の普及拡大に向け、機械播種の実演会を開催し、概要説明や実演、情報交換を行いました。
- 今後は、直播栽培を核とした省力的な一貫体系の確立を進めるとともに、大規模経営体の育成を図ります。また、土地利用型作物の選択肢の1つとして、たまねぎ栽培の普及拡大にも取り組んでいきます。



直播実演会の様子



播種の様子

（河内農業振興事務所）
（芳賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○ さといもの生分解マルチ、省力機械等の導入検討（上都賀地域）

- さといもの県内一の産地づくりに向け、プロジェクト活動を展開し、作付拡大を図っています。
- 高品質化、省力化の技術実証の展示ほ設置や検討会を開催するとともに、ほ場整備地区での作付を推進しました。
- 今後も、ほ場整備計画及び実施地区等に高収益作物として作付を推進し、新規栽培者を確保することにより産地拡大を目指します。



マルチ比較展示ほ見学会



省力機械等導入検討会

（上都賀農業振興事務所）

○ さつまいも生産者間の連携強化（下都賀地域）

- さつまいも生産者が増加する中、生産者間の連携を図るためのセミナーを開催しました。
- セミナーでは、全国的なさつまいも主力産地である茨城県で6次産業化に取り組む生産者を視察し、豚ぷん肥料や微生物資材を使用した栽培法、干し芋加工の原料品質の重要性、有利販売に向けた生産量確保の必要性について学びました。
- 栽培技術の向上や出荷・販売先の検討を進める上では、生産者同士の連携が必要であることから、引き続き連携強化に向けた取組を進めていきます。



さつまいもの栽培検討



干し芋加工場の確認

（下都賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○　さつまいも産地の更なる発展に向けて（塩谷南那須地域）

- さつまいもの産地拡大に向けた機運醸成を図るため、令和５（2023）年度に策定した「さつまいも産地躍進戦略」に基づき、生産者や関係者で産地躍進懇談会を開催しました。
- 懇談会では、産地躍進戦略の進捗状況の説明やフレンチシェフによる講演のほか、農商工連携による新商品開発状況や地域のさつまいも加工品マップを紹介しました。
- 引き続き、さつまいもの生産拡大と産地としてのブランド定着に力を入れていきます。



懇談会の様子



さつまいも加工品マップ
（塩谷南那須農業振興事務所）



（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 若手農業者を対象にした「乾田直播栽培」の勉強会を開催（下都賀地域）

- 土地利用型経営体の規模拡大に向け、水稲栽培の省力化に向けて「乾田直播栽培」をテーマに、若手農業者の勉強会を開催しました。
- 管内の水稲直播栽培の普及状況や実践農家の事例、メーカーからの最新技術の紹介等の後、実践者のほ場見学を行いました。



直播栽培の普及状況を説明



実践ほ場の見学

（下都賀農業振興事務所）

○ 水稲高温耐性品種「とちぎの星」の作付拡大の取組（下都賀地域）

- 下都賀地域の１等米比率は、近年の温暖化の影響を受けて低下傾向にあり、品質低下の著しい「コシヒカリ」と「あさひの夢」から、高温耐性品種「とちぎの星」への転換が進んでいます。
- 令和７（2025）年度は、「とちぎの星」の収量・品質の安定化を目指した生育状況調査ほを設置し、現地検討会で水管理や適期収穫の啓発を行いました。
- 今後も、高温が常態化すると予想されることから、関係機関・団体と連携した「とちぎの星」の作付拡大と品質向上を図っていきます。



「とちぎの星」の現地検討会



下都賀地域水稲品質対策会議

（下都賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○「米（マイ）レボリューション2035」プロジェクトを開始しました！（塩谷南那須地域）

- 令和７（2025）年度から、大規模土地利用型経営体の育成や次世代の担い手確保に向けて、意欲ある生産者を個別支援するプロジェクト「米（マイ）レボリューション2035」を開始しました。
- 12月には同プロジェクトの一環として、経営体同士の情報交換や勉強の場となる「米（マイ）レボリューション2035ネットワーク」を立ち上げました。
- この取組をきっかけに、塩谷南那須地域の土地利用型農業を盛り上げていきます。



ネットワークの立ち上げ


茨城県の大規模経営体を視察

（塩谷南那須農業振興事務所）

○　排水対策・スマート農業セミナーを開催！（那須地域）

- 気候変動による集中豪雨の増加を踏まえ、ほ場条件や作付品目に応じた排水対策と、大規模化に対応したスマート農業技術を紹介するセミナーを開催し、生産者や関係機関など84名が参加しました。
- セミナーでは、各メーカーが排水対策に係る機器や技術の説明・実演を行い、ラジコン草刈機の操作体験も実施しました。
- 今後も生産性の向上に向けて、最新の情報を提供しながら栽培方式やスマート農業技術の導入を促進していきます。


セミナーの様子


ラジコン草刈機の実演

（那須農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ ほ場整備事業の実施に向けたワークショップの開催（安足地域）

- 足利市高松地区で、ほ場整備事業の実施に先駆け、地区の現状と課題の整理や将来像の共有を目的とした、ワークショップを開催しました。
- 地区のキャッチフレーズ「東武線の車窓に輝く、高松の次世代型農業」が作成されるとともに、外部講師のもと終始活発な意見交換が行われ、関係者が地域農業への理解と認識を改めて深める良い機会となりました。



ワークショップの様子



営農構想発表会で成果発表

（安足農業振興事務所）



（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 全日本ホルスタイン共進会 10年ぶりの開催

- 令和７(2025)年10月25～26日にかけて、北海道安平町で10年ぶりとなる第16回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。
- 本大会は全国の酪農家が日頃の改良や飼養管理技術を競う場で、全国から400頭が出品されました。本県からは12頭が出品され、うち2頭が部門で優等賞を獲得するなど、健闘しました。
- 共進会は、酪農家同士や後継者、学生との交流・教育の場としても重要な役割を果たしているため、今後も、このような機会を活用し、本県酪農の更なる発展に努めて参ります。



共進会会場における審査の様子

（畜産振興課）

○ 畜産担い手の育成のための研修機会の提供

- 県では、後継者や若手生産者を対象とし、技術力向上や経営力強化に向けた研修会を開催しています。
- ８月の繁殖雌牛の手入れ技術を学ぶ勉強会には、県内の若手生産者や高校生など約180名が参加し、牛を用いた実践形式で理解を深めました。
- また、12月に農業大学校の生徒等を対象に、蜜蜂の生態や花粉交配用蜜蜂の取扱い方法など、養蜂について学ぶ特別授業を実施しました。



繁殖雌牛手入れ勉強会



蜜蜂を学ぶ特別授業

（畜産振興課）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ コントラクター組織育成アドバイザーの設置

- 耕畜連携の取組拡大により、水田を活用した飼料生産や堆肥の活用を一層進めるため、コントラクター組織育成アドバイザーを新たに3名設置しました。
- 令和７(2025)年度は、飼料生産経験の少ない組織に対して、飼料用とうもろこし栽培の技術的な指導や運営面の支援を行いました。
- 今後は、機械導入や供給先確保に向けた支援を通して、新たな組織の設立や既存組織の機能を強化し、自給飼料の更なる増産を図っていきます。



アドバイザーの活動の様子



コントラクターの活動の様子

（畜産振興課）

○ 耕畜連携に向けた取組

- 県では、持続的畜産経営推進会議を核に、飼料と堆肥のマッチング支援や機械導入支援、コントラクター育成等により、耕畜連携を推進してきました。
- 令和７(2025)年度は、地域に適した耕畜連携を更に進めるため、耕種農家における飼料用とうもろこし生産を推進するプロジェクト活動を各地域で実施しました。
- 今後は、このような活動を通じてモデル事例を増やし、県内全域に波及させ、粗飼料自給率100%に向けた取組を進めていきます。



会議の様子



地域プロジェクト活動の様子

（畜産振興課）

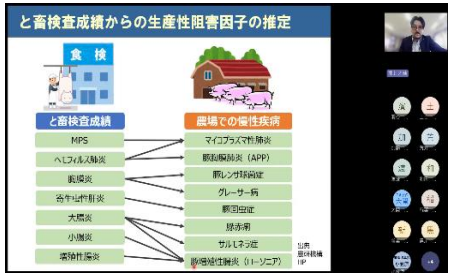
（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ とちぎ養豚農場カルテを活用した指導力強化

- 現在、県内養豚農場の20戸が活用している「とちぎ養豚農場カルテ」は、とちぎ食肉センター等のデータを分析し、生産性に影響する要因を見える化するものです。
- カルテを有効に活用するため、家畜保健衛生所等の26名の職員を対象に研修会を開催し、と畜検査データから生産効率を低減させている疾病を推察して衛生対策に生かした事例を共有しました。
- 今後もカルテを活用した農場支援を強化し、県産豚肉の品質向上と安定生産を進めていきます。



オンライン研修会風景



農場指導

（畜産振興課）

○ 特定家畜伝染病発生に備えた生産農場の分割管理導入

- 農場内を複数の区画に分けて管理することで豚熱など家畜伝染病の発生時に殺処分範囲を区画単位に留める「分割管理」の導入を進めています。
- 農場の状況に合わせて区分けを検討し、分割管理に必要な設備整備や機械導入等の支援を行いました。令和７（2025）年度は、３つの養豚場が県内で初めて分割管理を開始しました。
- 今後もこうした取組を通じて、家畜伝染病に強い畜産経営づくりを支援していきます。



新たに整備した
更衣室及び境界柵



区画専用に導入した
ダンプトラック

（畜産振興課）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ コントラクター組織の育成 （上都賀地域）

- WCSの収穫・調製を行う法人経営体における安定した組織運営のため、構成員を対象に個別巡回を行い、課題解決に向けた支援を行いました。
- また、汎用型微裁断飼料収穫機の導入支援により経営力の強化が図られ、作業効率及び品質が向上するとともに受益面積が拡大しました。
- 今後も自主的な運営及び持続的な発展に向けた取組を支援していきます。



乾田直播の実施



汎用型微細段飼料収穫機での作業

（上都賀農業振興事務所）

○ 酪農の第三者継承による新規就農者を支援（芳賀地域）

- 第三者継承により令和6（2024）年1月に新規就農した酪農家に対し、継続した支援を行っています。
- 3か月に1回の頻度で、本人夫婦と関係者が一堂に会すフォローアップミーティングを行い、就農後の不安や課題を共有、検討をしています。
- 引き続き、移譲希望者と継承希望者のマッチングに取り組むとともに、継承希望者が安心して就農できるように関係者と連携しながら支援していきます。



搾乳作業の様子



飼料生産の様子

（芳賀農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 耕畜連携コーディネーターによる養豚農家と園芸農家のマッチングが成立（下都賀地域）

- 地域内での円滑な飼料生産や堆肥流通のため、「耕畜連携コーディネーター」を設置し、耕種農家と畜産農家間の需要と供給に係る意向把握やマッチングに取り組んでいます。
- 令和７（2025）年度は、コーディネーターの活動により養豚農家とねぎ生産者の堆肥に係るマッチングが成立し、養豚農家での堆肥運搬と散布が始まりました。
- 今後も耕畜連携コーディネーターと連携し、飼料の生産及び堆肥の流通拡大に取り組んでいきます。



マニュアスプレッダーで目的地まで堆肥を運搬



ねぎ作付け予定地への堆肥散布

（下都賀農業振興事務所）

○ 稲WCS及び堆肥の利活用を推進 （塩谷南那須地域）

- 水田を活用して生産した稲ホールクロップサイレージ（WCS）や、家畜ふん堆肥の利活用を推進するため、現地検討会や研修会を開催し畜産農家や耕種農家等が参加しました。
- 現地視察のほか、意見交換を行い、参加者の理解醸成が進みました。
- 今後はWCS用稲栽培の省力化に向けた取組や、畜産農家と堆肥利用希望農家とのマッチング支援などを通じて耕畜連携の取組を拡大していきます。



稲WCSの利用に関する現地検討会



堆肥利活用研修会

（塩谷南那須農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○　水田をモ～っと活かす！飼料生産拡大セミナー開催で飼料作物拡大をけん引（那須地域）

- 那須地域における水田を活用した飼料生産の拡大を目的にセミナーを開催しました。
- 宇都宮大学の小川助教から「水田における飼料作物生産の今後の展望について」、西郷村の(農)鶴生ライスグロウィングの高木代表理事から「耕種農家による飼料生産への挑戦！」と題し講演をいただき、那須地域の広大な水田と良質な堆肥を活用した耕畜連携の一層の強化に向けた機運醸成が図られました。
- 今後も、那須地域の飼料生産拡大を目指し、地域の水田の活用に向けた取組を推進していきます。



小川助教の講演



高木代表理事の事例紹介

（那須農業振興事務所）

○　栃木県肉用牛総合共進会で那須町の繁殖牛が農林水産大臣賞を受賞（那須地域）

- 栃木県の和牛改良の推進と優良雌牛の生産技術向上を目的に第42回栃木県肉用牛総合共進会（種牛の部）が、矢板家畜市場で開催されました。
- 目揃え会等の勉強会を実施した結果、出品された多くの牛が入賞しました。中でも那須町の高久淳平氏のあけみ号は名誉賞（農林水産大臣賞）を受賞し、那須地域が優良子牛の産地であることを広く示すことができました。



目揃え会の様子



高久淳平氏とあけみ号

（那須農業振興事務所）

（３）生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 堆肥・もみ殻の広域流通の推進（安足地域）

- 安足地域では畜産農家が少ないため、堆肥利用が進んでおらず、一方でもみ殻は余剰状態にあります。
- 県内における相互広域流通を図るため、堆肥生産が盛んな那須農業振興事務所と連携し、堆肥・もみ殻の流通体制について検討しました。
- ライスセンターにおけるもみ殻の在庫状況把握や流通方法の検討のほか、那須地域の堆肥を試験的に園芸作物へ利用する取組を進めました。
- 今後は、本格的な相互広域流通体制整備を進めていきます。



ライスセンター調査結果



那須地域堆肥の運搬

（安足農業振興事務所）

